

世界に伝えたい！ 石垣のある 南予の風景

リアス式海岸に面した愛媛県南予地域の沿岸部の陸域は、急峻な山地斜面が大部分を占め、さらに水資源に乏しい厳しい耕作条件にあります。こうした環境の中でも、先人たちは知恵と工夫を凝らし、広大な石垣を築くことで土壌を保全し、段々畑農業を発展させて、現在は柑橘の高い生産性を実現しています。この地域は、2019年2月には「愛媛・南予の柑橘農業システム」として日本農業遺産に認定されました。現在は、世界農業遺産への認定を目指し、南予の景観が持つ魅力をさらに深く掘り下げ、後世に残すべき遺産として守り育てていく取り組みを産官学の共同のもと展開しているところです。今回のまちなか大学では、南予沿岸に広く見られる石垣に焦点を当て、その保全と継承の重要性について考えます。具体的には、石垣の歴史的価値、生物多様性保全の役割、そして修繕技術の伝承という観点から、3名の登壇者による講演とディスカッションを行います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

令和7年度 愛媛大学地域共創研究センター まちなか大学 vol. 3

2025年
8/19
(火)

18:00-20:00

愛媛大学E.U. Regional Commons(ひめテラス)
1階・NP地域交流ルーム(地域交流スクエア)

開催方法 対面40名(先着順)
WEB同時配信(ZOOM)

参加費 無料



宮本 春樹 Haruki Miyamoto

愛媛大学南予水産研究センター・客員研究員

愛媛各地の民俗および歴史の研究に長年従事し、『段畑とイワシからのごとつて』他、地域の歴史民俗を伝える著作を多数発表。愛媛県や県内の自治体の文化財保護行政にも尽力し、現在は南予沿岸部の海と山が持つ魅力を多角的に探究している。



亀井 彩香 Sayaka Kamei

愛媛県西予市明浜町狩江地区・地域おこし協力隊

石垣に魅せられて九州から西予市へ移住を決める。文化的景観にも認定された段々畑の石垣修繕や柑橘栽培にも取り組む。石積み修繕を通じて地域、社会全体をおもしろくしていこうと日々奮闘中。



徳岡 良則 Yoshinori Tokuoka

社会共創学部環境デザイン学科(地域共創研究センター)

畑地に残る境木、里地の植生変化、有用植物の方言など、地域住民の伝統的な暮らしと植物の関係を中心とした研究に従事。地域の自然の成り立ちとその保全方法を明らかにし、地域の活性化に貢献できる活動を目指す。



Facebook

申し込み方法

(2025年8月18日〆切) 本チラシの二次元コード、又は愛媛大学地域共創研究センターHP (<https://rcrc.cri.ehime-u.ac.jp/>) の「まちなか大学vol.3」の告知ページよりお申込みください。

問い合わせ

E-mail: rcrc_cri@stu.ehime-u.ac.jp (地域共創研究センター)
Tel: 089-927-8145 (地域協働支援部地域協働課)

申し込みはこちら

